

広島支部に所属する水守さんは、2011年4月から水道管製造関係者で組織された鉄管協会へ出向。3年半の間、ダクタイル鉄管の広報活動を担当されました。レンタカーの運転が勤務時間の大半を占めたほど、日本中を走り回ったそうです。通り道で見つけた「宝箱」の中からおきを3回シリーズで紹介して頂きます。

今回の記事は、一般社団法人奈良県建築士会 広報誌「2016年・士会奈良5月号」にも掲載されています。

## マニー水守の見聞雑記-1

広島支部 水守 寛敏

### 1. 阿蘇の水基



熊本県阿蘇市にある「阿蘇神社」の境内に湧き出る銘水「神乃泉」は、地域の生活用水、飲用水として利用されてきた。十数年前から木製や石造りの水基が14カ所設置され、道行く人にふるまわれ、散策コースとして楽しむことができる。写真は「幸の泉」で、住民が手作りで作り上げた水基である。

### 2. 貝類展示館「海のギャラリー」

高知県には名建築が多く、その中でもお気に入りには、土佐清水市にある「海のギャラリー」である。女性建築家の草分け的存在である林雅子の設計で、1966年に竣工して半世紀が経った現在でも全く見劣りせず、後世に残したい文化遺産として建築百選に認定されている。柱梁のない折半構造で、2枚のコンクリート屋根が棟部のトップライトで連結され、合掌造りになっている。貝類



展示館にふさわしく、建物全体が屏風折りのような形状で、オオシャコガイをイメージした外観である。館内は統一された深いブルーと間接照明により、来館者は海の中にいるように感じる。1階ホールから吹き抜け部に向かって見上げると、トップライトからの太陽光が2階の吹き抜けガラスを透過し、まるで海中から水面を見上げたときの太陽の煌めきを体験することができる。

### 3. ベタ踏み坂 (江島大橋)

島根県松江市から鳥取県境港市を結ぶ江島大橋は、門開閉時の渋滞解消などを目的として2004年10月に供用を開始した。乗用車のCMでは「ベタ踏み坂」として有名になり、豊川悦司と綾野剛の「どうだ、アクセルベタ踏みだろ?…いいえ…」は今も記憶に残っている。5千トン級の船舶が桁下を航行するため、島根県側で6.1%、鳥取県側で5.1%の勾配を設け、道路面の高低差は50mにもなる。中央径間250mは、PCラーメン構造の橋梁では日本最長である。協会の「綾野剛」と呼ばれた(?)筆者もレンタカーで走行したが、実際に走ってみると「ベタ踏み」にはならない。何往復かしてみたが、結果は同じであった。しかし、日本の最高技術を誇る「江島大橋」を走行できたことに変わりない。



### 終わりに

2年間、熊本の広報担当をさせていただきましたが、犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表すとともに、被災された方に心からのお見舞いを申し上げます。

建築士 HIROSHIMA No.174 平成28年7月1日発行  
発行 公益社団法人 広島県建築士会 〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号  
TEL (082)244-6830(代) FAX (082)244-3840 URL <http://www.k-hiroshima.or.jp/>  
e-mail : [info@k-hiroshima.or.jp](mailto:info@k-hiroshima.or.jp)

発行人 会長 元廣 清志  
編集人 広報委員長 神岡 千春

## 1. はじめに

今年の中四国ブロック大会は岡山市で実施されたが、10月の全国大会は別府市で開催される。岡山・大分の両県には建築家・磯崎新の作品があり、ここではBCS賞を受賞した「ピーコンプラザ」(別府市)と「奈義町現代美術館」(岡山県奈義町)を紹介する。

## 2. ピーコンプラザ

「大分県立別府コンベンションセンター」と「別府市市民ホール」で構成された複合施設で、1995年に竣工した。ファサードのガラスカーテンウォールは、街路樹などの周辺環境を映し出すことで、地域に溶け込んでいる。一方で、建物内部へは適度な光を取り入れ、トップライトの淡い光と合わさって、エントランスホールは白い清潔感を醸し出している。エントランスホールの



グローバルタワー

左右には、最大 8,000 人を収容できるコンベンションホールと、音楽専用のフィルハーモニアホールが配置されている。また、敷地には高さ 125mの展望塔「グローバルタワー」があり、別府公園内の海拔 0m地点を直径 1kmの球の中心とし、その曲面の一部とそれに交差する円柱部で形成されている。



ピーコンプラザ

## 3. 奈義町現代美術館

公共施設としては世界で初めて建築家と芸術家が共同制作した現代美術館で、1994年に開館した。荒川修作+マドリン・ギンズ、岡崎和郎、宮脇愛子の芸術家が巨大作品を、磯崎新がその空間を担当し、作品と建物が一体化されている。3つの展示室は太陽・月・大地で表現され、「太陽」は南北軸、「月」は中秋の名月(午後10時)の方角、「大地」は那岐山頂に向かって、それぞれ固有の軸線を持たしている。



奈義町現代美術館

## 4. 築留二番樋(大阪府柏原市)

大和川の河川水を農業用水路の長瀬川・玉申川へ取水するために設けられた樋で、1704年(宝永元年)に付け替えられた。1888年にはイギリス積みの煉瓦造りの単アーチ型樋門に造り替えられ、各壁の天端と床面には花崗岩が敷き詰められている。現在も農業用水として利用され、周辺のまちなみの中に解け込んでいる。



築留二番樋

## 5. おわりに

もともと私は建築屋であったが、いつの間にか水道屋へ転身してしまった。見聞雑記は“建築”の他に“水”もキーワードに含めている。「築留二番樋」は“水”をテーマにしたお気に入りの場所である。

# マニー水守の見聞雑記-3

広島支部 水守 寛敏

## 1. はじめに

私は名古屋市で生まれ、奈良県斑鳩町で育った。そこで、有松のまちなみ(名古屋市)と法隆寺五重塔(斑鳩町)、後述するが、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館を紹介する。

## 2. 有松のまちなみ

旧東海道の池鯉鮒宿と鳴海宿の間の合宿として、1608年(慶長13年)に開村した。この地区に伝わる「有松絞」は竹田庄九郎が考案したと伝えられ、その後は絞染めとともに繁栄した。1784年(天明4年)の大火により、街道沿いの家は瓦葺き・塗籠造りの防火構造に改められた。2階には虫籠窓を設け、腰壁をなまこ壁にするなど、今もその景観を残している。

スケール感豊かな展示室を配している。設計者である谷口吉生は、芸術家・猪熊弦一郎との協働により、アーティストと建築家の理念が細部に至るまで具現化することに成功した。



有松のまちなみ

## 3. 法隆寺五重塔

法隆寺地域の仏教建造物は、ユネスコの世界文化遺産に登録されている。五重塔は西暦680年頃に建立され、金堂と共に現存する世界最古の木造建築物である。構造的特徴として、独立した5つの層が下から積み重ねられ、塔身の幅が上層ほど狭く、心柱が中央を貫通し、5層の頂部のみで接続していることなどが挙げられる。ロッキング運動により水平方向の地震荷重を鉛直方向に変換し、剪断力を低減するため、地震に強い構造といえる。個人的にはミステリアスであることが興味深い。聖徳太子(574～622年)の死後に建てられ、一族が攻められて自害した場所にある。梅原猛の「隠された十字架」によると、「(一族が滅んだあと)都で伝染病が蔓延し、政治的中心人物が相次いで病に倒れ、これを怨霊による呪いと考えた藤原氏が、聖徳太子の怨霊供養のために創建した」という。「日本書紀」の著者と考えられている藤原不比等も同様に論じていることから、蘇我氏を排して政治的実権を握った藤原氏自身が法隆寺を創建したのかもしれない。



法隆寺五重塔

## 4. 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀駅前に立地する、市立図書館を併設した美術館である。ファサードには、猪熊弦一郎の巨大な壁画やオブジェの設置されたゲートプラザがある。展示室への入口は駅前広場に面していて、空間でつながっている。館内は3層構造になっていて、自然光を取り入れた開放的な空間が広がっている。2階には対照的なプロポーシオンをもつ2つの展示室があり、3階には天井高約7mの



丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

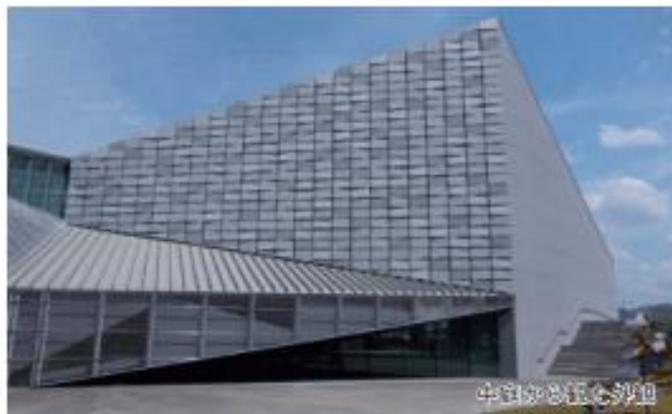
## 5. おわりに

勤続20年のお祝いとして、勤務先から旅行券を頂いた。家族で旅行したことは、ほとんどなかった。今は写真になってしまったが、癌で闘病中だった父を誘い、四国を旅した。瀬戸大橋からの眺望を見た父が、生まれて初めて四国に行けることを満足している姿は、今も覚えている。丸亀市は、その最初の地である。

東北の震災直後に大阪へ転勤し、その8年後、4月1日付で九州支店の配属になりました。今号から3回シリーズで、小生の視点より九州にある建築物などを紹介していこうと考えています。

## 1. 九州芸文館 (設計：隈研吾)

九州における文化センターのゲートウェイとして、広城公園内にある九州新幹線 筑後船小屋駅前に整備され、自然と人々を融合したミュージアムです。本館棟・アネックス1(工房棟)・アネックス2(工房棟)の3つに構成され、本館棟はゲートをくぐって中庭を囲むようなレイアウトで配置されています。敷地周辺にある民家のスケールに合わせるため、同じような勾配屋根を架け、折り紙が折り重なるような形状をなし、屋根の向き・勾配をランダムにすることで、ざっくばらんな風景が大地と駅を繋ぐ役割を果たしています。屋根材料は石・金属板や太陽光パネルなどを混在させることで、それぞれが個性を持った表情をしています。また、パネルも整然と貼っているわけではなく、部分的に貼る角度をランダムに変えることで、生きているように感じられます。内部は白壁と木材を基調とした室内とインテリアになっており、木材特有の柔らかく明るい空間が広がっています。特に、鳥の巣のようなランプシェード、チョウチンアンコウの頭上に光る提灯のような照明器具(スタディーカウンター)は、私のお気に入りになりました。



中庭を囲む本館棟



スタディーカウンター

## 2. 祇園橋 (場所：熊本県天草市)

長さ28.6m、幅3.3mの橋間に約30cmの角柱が5列5行45脚で支える多脚式アーチ型 石造桁橋で、国内最大級です。この川を挟んでキリシタン軍と唐津藩の死闘が繰り広げられ、屍で埋め尽くされました。1832(天保3)年に庄屋大谷健之助が発起人となり、完成したものです。



外観



祇園橋

2回目は、博多駅周辺のレトロな建築、宮崎県にある大自然の中の土木建造物を紹介します。

## 1. 博多千年門

訪れた観光客を、歴史的文化財が多く残る寺社町エリアへ導くウエルカムゲートです。地域住民・地元企業・行政が一体となって建設に取り組み、平成26年3月に完成しました。かつて、博多から大宰府政庁へ延びる官道に博多の入り口となる辻堂口門が存在していたことから、その門に準じて木造の四脚門様式、切妻本瓦葺の構造をなし、門扉の板材は太宰府天満宮より寄贈された樹齢千年の千年樟を用い、欄間には博多織の献上柄模様様が刻まれています。



## 2. 旧福岡県公会堂貴賓館

九州沖縄八県連合共進会の来賓接待所として建設され、明治43年3月に竣工しました。同年4月には閑院宮御夫妻の宿泊所として利用されましたが、その後は公会堂などの公共施設に転用され、昭和31年11月以降は福岡県教育庁舎として使用されました。昭和56年11月、庁舎の移転に伴い教育委員会も移転し、その跡地が天神中央公園の一部となったため、貴賓館以外の施設は取り壊されました。(貴賓館は現在、補修工事中)

貴賓館は数少ない明治時代のフレンチネッサンスを基調とする木造2階建の洋風建築で、北側の正面中央には石柱による玄関ポーチが、



北東隅には八角塔が張り出し、南側の背面には平屋の浴室などが附属し、南東の隅2面にはベランダが設置されています。外壁の1階腰壁には白い化粧タイルを貼り、モル

タル壁には目地を入れ、2階の窓額縁や軒蛇腹をモルタルで造り出し、石造の外観に擬しています。屋根においては中央に陸屋根を設けた寄棟形で、八角塔屋は尖塔、陸屋根以外は天然スレート葺きとなっています。内部は、主要室の床が板張り、壁は白漆喰塗腰板張り、天井は木製格縁や木骨下地漆喰塗の格縁で幾何学模様をつくり、更には各所にお洒落なレリーフや縁どりが施され、貴賓館にふさわしい内装となっています。



## 3. 照葉大吊橋 (場所：宮崎県綾町)

「照葉樹林の自然 日本一」といわれている九州山地国定公園の照葉樹林地帯内にある綾川溪谷(本庄川)に架かる長さ



250m、高さ142mの世界最大規模の歩道吊橋です。構造形式は鋼製の長経間2ヒンジ補剛吊り橋で、照葉樹林一帯が九州中央山地国定公園に指定された後の1984年3月28日に架橋されました。雄大な照葉樹林が作る景観を主役として扱うため、できるだけ目障りとならないように橋の存在感を消し、一方で、訪れた人がこの照葉樹林帯を観るために360°見渡せることができるようになっているデザインが素晴らしいところです。2004年に、土木学会デザイン賞優秀賞を受賞しています。



## 1 はじめに

3回シリーズの最終回は、解体されるレトロ建築、保存活用されているレトロ建築について紹介します。

## 2 旧都城市民会館

メタボリズム理論に基づいて建築家 菊竹清訓氏が設計した文化ホール(1,407席)で、1966(昭和41)年に竣工しました。鉄筋コンクリート造の下部構造(=変わらない部分)の上に、耳の内部構造をイメージした鉄骨造の屋根(=変わる部分)が架けられ、地盤が悪く基礎杭を集中させる必要性によりトラス梁を放射状に並べた屋根構造が採用されています。中央部の吹出口から集中的に行う空調方法、建築の形態に合わせた音や空気的设计手法は、設計者の苦勞が窺えます。完成直後に文化ホール屋根からの雨漏り、鳴き竜現象が生じるなどのトラブルに見舞われましたが、2006(平成18)年にはDOCOMOMO JAPANによる「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選定されています。

開館から40年に渡って地域の文化振興拠点として活用されてきましたが、総合文化ホールの開館により2007(平成19)年3月に閉館しました。その後、市が誘致していた大学の講堂として使用貸借契約が締結されるものの、全面改修には多額の費用を要することから、一度も使用されないまま返還されました。50年以上経過し、コンクリートの一部に爆裂や中性化などが見られ、耐震性の低下も懸念されています。財源確保に目算のある保存活用案について民間団体からの公募を募ったものの、応募はありませんでした。日本建築学会からの提案を踏まえた市民アンケートでは解体:83%、存続:16%という結果になり、民意が尊重されて解体することが決まりました。



## 3 旧門司税関

1912(明治45)年に建設されましたが、完成直後の火災で焼失したために跡地へ再建され、建築家 妻木頼黄の指導の下、映寿栄一によって設計されました。使用期間は短く、1927(昭和2)年に移転した後は民間に払い下げられ、事務所ビルとして利用されました。1945(昭和20)年の空襲により屋根が消失したため、戦後は窓を塞いで倉庫として転用されました。その際、海側両翼部および内部2階の床組から内装に至るまで全てが撤去され、当初の面影はなくなりました。しかし、妻木頼黄が監修した現存する建築物は希少であり、明治時代の赤煉瓦建築として極めて優れていることから、当時の北九州市港湾局が建物を取得し、地域の観光復興と活性化のため、4年の歳月を掛けて復元作業が実施されました。1995(平成7)年には他の施設と共に「門司港レトロ」がグランドオープンし、往時の姿を取り戻しました。近代的なデザインにネオルネッサンス調が加わった外観を成し、1階には吹き抜けのあるエントランスホールや喫茶店と展示室、2階にはギャラリーと展望室があり、市民の憩いの場や多目的のホールとして活用されています。

襲により屋根が消失したため、戦後は窓を塞いで倉庫として転用されました。その際、海側両翼部および内部2階の床組から内装に至るまで全てが撤去され、当初の面影はなくなりました。しかし、妻木頼黄が監修した現存する建築物は希少であり、明治時代の赤煉瓦建築として極めて優れていることから、当時の北九州市港湾局が建物を取得し、地域の観光復興と活性化のため、4年の歳月を掛けて復元作業が実施されました。1995(平成7)年には他の施設と共に「門司港レトロ」がグランドオープンし、往時の姿を取り戻しました。近代的なデザインにネオルネッサンス調が加わった外観を成し、1階には吹き抜けのあるエントランスホールや喫茶店と展示室、2階にはギャラリーと展望室があり、市民の憩いの場や多目的のホールとして活用されています。



## 4 おわりに

建築アセットマネジメントの実施により将来経営の見通しをつけた上で、事業実施にあたり財源確保が可能な保存活用でなければ、事業者単独での費用負担が困難であるので、地域の観光活性化を目的に周辺施設と併せて保存活用できるのであれば、後世に名建築を残していけるのではないかと考えています。

コロナの影響はありましたが、三密にならない範囲で“建築まちなみ探訪”を続けました。今回は福岡県内のおもしろい建築を紹介します。

## 1. 世界の建築家通り

「世界の建築家通り」(福岡市内)と呼ばれる一角には、黒川紀章、マイケル・グレイヴス、スタンリー・タイガーマン、出江寛、水谷顕介、葉祥栄、木島安史、鮎川透および美川淳而が設計した建築物があり、そのうち3件を紹介します。

**福岡インターナショナルスクール別館**(設計:黒川紀章)は、とんがり帽子のトップライトと山稜のような屋根形状がユニークです。



**シーサイドももちアルティコートA館**(設計:出江寛)は、三角屋根と窓の両側に突出したパステルカラーのボーダーを使っているところがユニークです。



**シーサイドももち葉祥栄棟**(設計:葉祥栄)は、柱と梁を格子状に幾重も重ねているところがユニークです。



## 2. 博多偕成ビル(設計者不明)

博多駅近くの音羽交差点の一角には、ユニークなオフィスビルがあります。出張からの帰りにこのビルが見えると、帰ってきた実感が湧きます。上階(6階以上)にはバルコニー、その外側は外装材で覆われ、パンチングのような円形開口部が無数(95個)施されているところは、巨大なたこ焼き機に見えます。かつてウルトラセブンの特撮に使用され、百窓の家とも呼ばれた「試みられた起爆空間」(設計:林泰義・富田玲子)に似ていますが、今は取り壊されており、伝説の住宅のDNAは博多で引き継いでいると思います。なお、申しておきますが、私の宇宙船ではありません(笑)



## 3. 福岡ひびき信用金庫本店(設計:村野藤吾)

八幡駅(北九州市内)の近くに、レトロな建築物があります。街に向かって突き出す巨大なホール、交差点から見て対象形の高層部、その上部には特徴的な開口部、さらに両端には塔屋が設置され、鶴翼に見える象徴的なファサードです。また、褐色のタイルで外装された姿は、かつての鉄の街“八幡”をイメージした外観となっています。



今回、紹介した建築物は竣工後30~40年経過しているが、施主様の抱えぬ努力(維持管理)により、ありがたく探訪を続けています。老朽化したから壊すのではなく、我々建築士の職能を活かし、新しいものを取り入れながら、時代の流れに合わせて変化しなければならないと考えています。

## はじめに

新年あけまして おめでとうございます。福岡県は神社仏閣が多く、3,417社・2,379寺あります。という事で、今回のテーマは“あけまして 福岡県”です。

### 1. 筑前國一之宮 住吉神社

全国に2,129社ある住吉神社の中でも最初の神社で、国の重要文化財に指定されています。社殿は「住吉造」で、桁行4間・梁間2間の規模を有し、檜皮葺で切妻の直線形、出入口が直線型妻入式という特徴があります。正面中央の柱は扉の両脇にあり、3間のように見えますが、裏正面は2間になっているところがユニークです。また、秋の例大祭では相撲会が開催され、境内に土俵があります。



住吉神社 社殿

### 2. 櫛田神社

博多の総氏神様としては最古であり、博多祇園山笠が奉納される神社で、7月15日の追い山笠の櫛田入りでは、ここでクライマックスを迎えます。また、節分大祭では福餅の飾り付けや日本一大きな「おたふく面」が設置され、お化け参拝も行われます。境内にある建築物のほとんどが銅板一文字葺きで、軒先には唐破風が取り付けられ、妻飾りや懸魚などは繊細で美しい造りです。また、境内には戦国時代に焼け跡から残った石や瓦を厚く練り込んだ博多練塀があり、嶋井宗室の屋敷から移築再建されました。



博多歴史館から見た櫛田神社



博多練塀 (櫛田神社境内)

### 3. 大本山成田山 久留米分院

身代り不動尊で有名な大本山成田山新勝寺から分霊・開山し、境内には高さ62mの鉄筋コンクリート造で13mの幼児を抱いている救世慈母大観音像、正面に釈尊成道像が安置された高さ38mの平和大仏塔極楽殿が建立されていて、参拝者はその壮大さに圧倒されます。大観音像の胎内(内部)には螺旋階段があり、登っていく途中には眺望窓があり、雲仙岳も眺めることができます。



成田山久留米分院の平和大仏塔極楽殿

## おわりに

住吉神社は散歩コース上にあり、参拝しています。近くには洋菓子店が数店舗あり、頑張っています。今年は、博多の古地図と見比べながら、街を散策してみたいと思います。



はじめに

今回の「建築まちなみ探訪」は、「こげん おもしろか福岡県」です。

## 1. 大村美容ファッション専門学校 (設計: 高松伸)

「人々に一瞬にしてその存在を知らしめ、一瞬にして人々を魅了する」をコンセプトに、クライアントの頭文字「O」をモチーフとして、ファサードのデザインに使用しています。モチーフは湾曲させることで立体感を持たせ、ガラス窓の支持部材に光を当てることで、内部が発光しているように見えます。ルミエール (Lumiere = 光) と名付けられ、学生にとって光り輝く道標となっています。



大村美容ファッション専門学校

## 2. スターバックス大宰府天満宮表参道店 (設計: 隈研吾)

大宰府天満宮の参道沿いに、「和」をテイストしたコーヒーショップがあります。「自然素材による伝統と現代の融合」をコンセプトに、60角の杉材を約2,000本使用し、木組みを筋交いに用いて上屋を支えています。木組みをより硬いものにするため、ジョイントをダボで縫い、ダイアゴナルに織り上げています。木のぬくもりとともに、光と風が流れてくるような空間が特徴で、2012年にグッドデザイン賞を受賞されています。



スターバックス大宰府天満宮表参道店

## 3. 旧福岡市動植物園正門

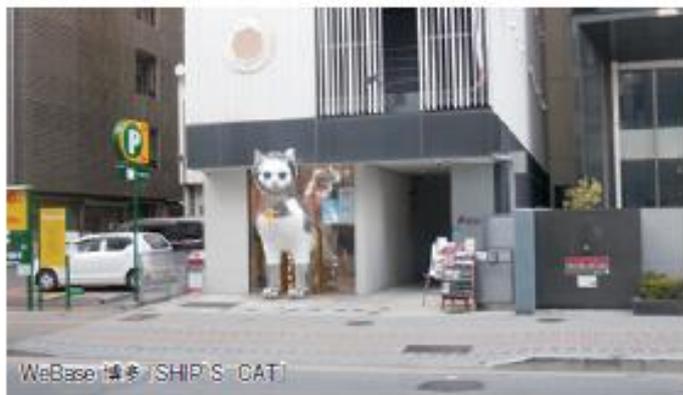
昭和8年に開園した福岡市動植物園は、約10年後に閉園しました。正門は、跡地に建設された馬出小学校の一角に保存されています。ドイツのハーゲンバック動物園の正門を模したとされ、半円柱と角柱を併せ持つ柱には幾何学模様が施され、さらに一對の像の頭が塑像で装飾されています。平成24年には、福岡市登録有形文化財に指定されました。



旧福岡市動植物園正門

## 4. WeBase 博多 [SHIP'S CAT]

コミュニティ型ホテル「WeBase 博多」は、ベッド数164を有する九州最大のホテルです。ファサードのデザイン「SHIP'S CAT」は「港湾都市 博多」のシンボルとして、世界中の旅人のホテルとして、「旅の守り神」である猫をモチーフにデザイナーのヤノベケンジ氏によって制作されました。2018年度に、福岡市都市景観賞を受賞されています。



WeBase博多 [SHIP'S CAT]

おわりに

今回は、思わず笑ってしまうものを中心に選びました。われらの建築は、人類の幸福のため、最良の芸術たるべしです。芸術は時代の流れとともに変化していくものですが、我々建築士も新しいものを取り入れながら変化していかなければと考えています。